

2012年度秋季講演会報告

中川 義次¹

2012年10月24日から26日にかけて、神戸大学統合研究拠点コンベンションホール(ポートアイランド)にて、日本惑星科学会2012年度秋季講演会が行われました。今年度の秋季講演会は、神戸大学110周年記念行事の一環として、神戸大学大学院理学研究科との共催で開催されました。期間中は大きな混乱や事故もなく、講演会を終えることができました。ご参加頂いた皆様には、心から御礼申し上げます。

今年は、事前申込をして頂いた方が124名、当日登録の方が69名、合計193名の方にご参加頂きました。講演会場として使用した神戸大学統合研究拠点コンベンションホールは、今年の4月から使用が開始された新しいホールです。ホールは階段式となっており、各席には折りたたみ式の机とコンセントが配置され、設備の整った会場で本講演を行うことができました。ポスター会場は2カ所に分かれて少々手狭でしたが、狭い空間ながら発表者や質問者の方々になるべく広いスペースでポスターを議論してもらうため、今回はポスターの配置を工夫し、発表日毎に交互に並ぶ様にさせていただきました。また、コンベンションホールに隣接する建物には、神戸大学の様々な研究プロジェクトが入っており、その3階には惑星科学研究センター(CPS)が入居しております。講演セッション間の休憩時間や、昼休みに多くの方にCPSに足を運んで頂きました。学会期間中の委員会や会合は、統合研究拠点のミーティングルームやCPSのセミナー室を使用させて頂きました。CPSのスタッフ及び事務員の方々、統合研究拠点の事務員の方々には心より御礼申し上げます。

発表数の合計は150件で、うち口頭発表が93件、ポスター発表が57件でした。口頭発表とポスター発表の両方が義務付けられている最優秀発表賞のエントリー講演数は7件で、上述の口頭、ポスターの数にそれぞれカウントされています。また、一般講演とは別に最優秀研究者賞特別講演が1件行われました。今年の講演会は、発表形態を特に希望されなかった方は、全員ポスターで発表をして頂きました。また、一般口頭



図1：秋季講演会会場：神戸大学統合研究拠点コンベンションホール。



図2：ポスターセッション。

1. 神戸大学大学院理学研究科・惑星科学研究センター (CPS)
yoshi@kobe-u.ac.jp



図3：2012年度最優秀発表賞授賞式：左が受賞者の長勇一郎会員（東京大学）、右が渡邊誠一郎会長。

講演の時間は、昨年度と同じく質疑込みで11分とさせて頂きました。さらに今年は、100件近くの口頭発表数だったため、開始時間も8時45分とさせて頂きました。参加者の皆様には朝早くからの講演開始にご協力頂きまして、大変感謝致します。1日目は最優秀発表賞選考セッションが行われ、7件の講演がありました。その発表賞受賞者の表彰式が2日目の総会で行われ、東京大学の長勇一郎会員が受賞されました。また、2010年度に最優秀研究者賞を受賞された名古屋大学の小林浩会員の特別講演が総会後に行われました。

懇親会はコンベンションホール4階のラウンジで行われました。懇親会の参加者が132名と大変多く、ラウンジ(定員60名)だけでは大変狭かったため、冷たい風が吹いた日ではありましたが、屋外のテラスも同時に使用しました。懇親会には、一般講演会の講師を依頼した神戸大学大学院理学研究科の巽好幸教授にもお越し頂き、ご挨拶をお願い致しました。また、今回の秋季講演会は記念すべき第20回ということで、荒川政彦LOC実行委員から歴代の秋季講演会に関する様々なエピソードを紹介して下さい、大いに盛り上がりました。

本講演終了後の27日には、神戸市青少年科学館にて一般講演会が行われ、巽好幸教授に「なぜ地球だけに陸と海があるのか?」という題目で、ご講演をお願い致しました。当日は小学生からご年配の方まで、総計184名の方に来て頂きました。巽教授の講演は大変好評で、講演終了後に多くの質問がありました。広報や会場設営等、多大な面でご協力頂いた青少年科学館



図4：2010年度最優秀研究者賞特別講演：左が講演者の小林浩会員(名古屋大学)、右が講演者の紹介をする佐々木晶2010年度学会賞選考委員長。

のスタッフの方々にはこの場を借りて御礼申し上げます。

最後に、神戸大LOC実行委員として裏方で働いて下さった方々、学会webや投稿システムを管理して頂いた末次竜会員、当日アルバイトに入って頂いた神戸大学の学生の皆さん、多くの助言や御指南を頂いた行事部会や情報部会の皆様には、改めてこの場をお借りして深く御礼申し上げます。来年度の秋季講演会が、渡部潤一実行委員長を筆頭とする国立天文台LOCのもと、ますます盛大に行われますことを祈念しております。